

ART SUPPORT CENTER

南関東・甲信ブロック

障害者芸術文化活動支援センター



つくること、みること、
表現することを
もっと身近に

Contents

02 About 支援センターとは？

06 [埼玉] 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集

08 [埼玉] ART(s) さいほく

10 [千葉] 千葉県障害者芸術文化活動支援センター うみのもり

12 [東京] 東京アートサポートセンター Rights (ライツ)

14 [神奈川] 神奈川県障害者芸術文化活動支援センター

16 [山梨] YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

18 [長野] ザワメキサポートセンター (長野県障がい者芸術文化活動支援センター)

20 Archive 南関東・甲信ブロックの協働 2021–2024

22 Interview 支援センターとその役割 長津結一郎

芸術文化を通して 社会とつながれるように

このパンフレットでは埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県の1都5県にある、7つの「障害者芸術文化活動支援センター」(略称、支援センター)を紹介します。

障害のある人が芸術文化を通してより生きやすくなる社会をめざし、「南関東・甲信ブロック」と呼ぶこの地域では、異なる特徴を持つ支援センターが連携しながら活動を続けています。





About

支援センターとは？

障害のある人が芸術文化にふれ、
楽しみ、深めることができる社会をめざすための
中間支援を行う機関です。



正式名称は「障害者芸術文化活動支援センター」。
都道府県ごとに1～2拠点ずつ設置され（一部未設置）、
おもに芸術文化活動の実績のある福祉団体や自治体などが運営しています。

この取り組みは、2017年度からスタートした厚生労働省による
「障害者芸術文化活動普及支援事業」により行われています。



障害者芸術文化活動普及支援事業とは？

障害者芸術文化活動普及支援事業では障害のある人と芸術文化に関するさまざまな支援に取り組んでいます。各都道府県に支援センターを設け、「相談支援」「機会創出」「人材育成」「情報発信」などに取り組みながらネットワークを築くことで各地域に支援体制をつくっています。北海道から沖縄までの47都道府県が7つのブロックにわかれて活動していることも特徴で、本書で紹介する南関東・甲信ブロックもその1つです。

体制

●支援センター：48 団体（2025年度）

●広域センター：7 団体

7ブロックに、それぞれ1つずつ設置され、ブロック内の支援センターをサポートしています。南関東・甲信ブロックの広域センターは「南関東・甲信障害者アートサポートセンター」。

●連携事務局：1 団体

上記の支援センターや広域センターの活動をサポートしています。

南関東・甲信ブロック

南関東・甲信ブロックの支援センター

埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県、山梨県、長野県に7つの支援センターが設置されています。



埼玉県支援センター（基幹型）

埼玉県障害者芸術文化活動支援センター
アートセンター集
実施：社会福祉法人みぬま福祉会

千葉県支援センター

千葉県障害者芸術文化活動
支援センター うみのもり
実施：株式会社いろだま

神奈川県支援センター

神奈川県障害者
芸術文化活動支援センター
実施：認定 NPO 法人 ST スポット横浜

埼玉県支援センター（特色型）

ART(s) さいほく
実施：社会福祉法人昴

東京都支援センター

東京アートサポートセンター
Rights（ライツ）
実施：社会福祉法人愛成会

山梨県支援センター

YAN 山梨アール・ブリュット
ネットワークセンター
実施：社会福祉法人八ヶ岳名水会

長野県支援センター

ザワメキサポートセンター
（長野県障がい者芸術文化活動支援センター）
実施：社会福祉法人長野県社会福祉事業団

CHECK

●には広域センター「南関東・甲信障害者アートサポートセンター」も設置されています。





支援センターは どんなことをしているの？

南関東・甲信ブロックの支援センターのおもな取り組みは、
大きくわけて5つあります。



1

相談支援

芸術文化活動に関する相談にのる

障害のある人の芸術文化活動に関する相談を受け付けています。例えば創作環境、権利、作品の販売や発表、鑑賞に関する相談です。障害のある人や家族、介助者、自治体、企業などから寄せられており、情報提供や関連機関を紹介するなど、相談の種類に応じて伴走しています。



2

機会創出

芸術文化にふれる機会をつくる

だれもが芸術文化にふれるきっかけをつくるため、展覧会やワークショップ、身体表現や音楽の舞台公演などを開催または支援しています。鑑賞や創作などそれぞれの方法で多くの人が関わる機会をつくっています。



3

ネットワーク

ネットワークをつくる

多角的な視野で支援することをめざし、分野や領域を超えたネットワークを築いています。文化、福祉、教育、まちづくり、行政などの専門家のほか地域の人も含めた意見交換や情報共有を行っています。



4

人材育成

多様な人材を育てる

福祉事業所の職員に向けた芸術文化に関する研修や、芸術文化関係者などに向けた福祉現場の見えるプログラムを開催するなど、障害のある人の芸術文化活動を推進する人材が育つよう支援しています。



5

情報収集・発信

情報を集めて発信する

障害のある人の芸術文化活動に関する情報の収集と発信をしています。イベント情報のほか、地域のアーティストや芸術文化活動の実態などの情報を収集し、さまざまな方法で発信しています。



南関東・甲信ブロック 障害者芸術文化活動 支援センター



※事業は1年ごとに計画し、実施しています。それぞれの地域の状況に応じて取り組んでいるので、
具体的な事業内容は支援センターによって異なります。

埼玉県障害者芸術文化活動支援センター

アートセンター集



支援者との関わりから生まれる表現 Photo: 武藤奈緒美

福祉、アート、法律、行政など 多様な専門家が対話を重ねる場

埼玉・川口にあるアートセンター集は2016年に基幹型^{*1}の支援センターとして開設。運営する法人は1995年ごろから重度の障害のある人の表現活動に取り組んでいます。

アートセンター集では、2009年から県主体で行っていた「埼玉県障害者アート企画展」の運営を引き継ぎ、県との協働で「障害のある方の表現活動状況調査」を実施。また、福祉施設に加えて、美術や教育の専門家、行政職員、弁護士が参画する、「埼玉県障害者アートネットワーク TAMAP±〇（タマップ・プラマイゼロ）」を2016年に立ち上げました。美術・福祉の両視点を学び合いながら展覧会をつくる「埼玉方式」という手法を県外に発信しています。さらに本ネットワークにも加わる特色型^{*2}の支援センター、ART(s)さいほく（p.8）とも連携を深め障害のある人の芸術文化活動の普及をめざしています。

*1 埼玉県全体を統括する障害者アートの支援拠点を「基幹型」と呼ぶ。

*2 「特色型」は県北西部に密着した活動を行い地域に根ざした支援を提供。



埼玉県障害者アートネットワーク TAMAP ±〇の定例会



タマップダンス公演 2022 Photo: 武藤奈緒美

展覧会の運営から、支援のまなざしを育む

「埼玉県障害者アート企画展」では障害のある人の表現活動に長年携わるアートディレクターをファシリテーターにむかえ、福祉施設の職員が学びながら企画・運営を行っています。そこで大切にしているのは、展示手法だけでなく、表現活動を通して支援のまなざしを育むこと。企画展の運営を通して得た気づきを日々の支援につなげています。



作品について語り合う研修

多様な視点で「これってアート？」も発掘

県と行っている「障害のある方の表現活動状況調査」を通し県内に眠るアートの原石を発掘しています。なかには作品かどうかかわからない表現も。その調査票をもとに行う「埼玉県障害者アート企画展」の作品選考会では、美術の専門家のほか福祉施設の職員や弁護士、行政職員などさまざまな視点を交えてディスカッションしています。



埼玉県障害者アート企画展の選考会



Q. どんな存在をめざしていますか？

地域のなかでいつも明かりが灯っていて、人が集まってくる「灯台」のような場所でありたいです。障害のある人もない人も、さまざまな表現を通してつながり、何だか心がホッとできるような瞬間に出会える場所であれたらと思います。（城田侑希）

STAFF'S
COMMENTS

Shirota Yuki

INFORMATION

埼玉県障害者芸術文化活動支援センター
アートセンター集

社会福祉法人みぬま福祉会

〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂 1445 工房集内

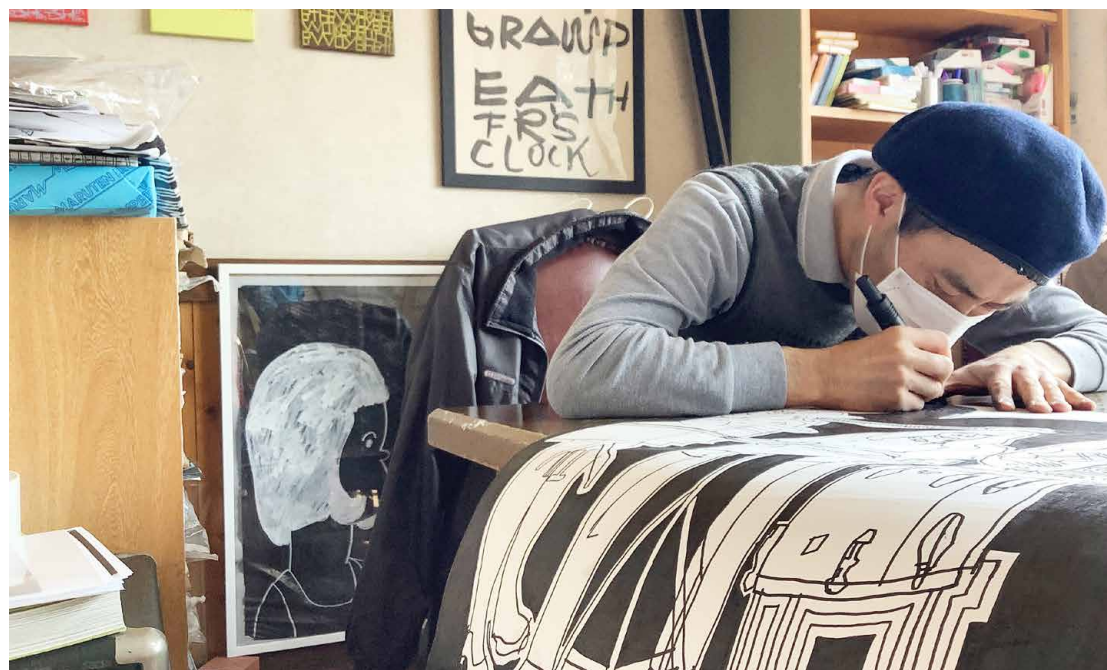
TEL：048-290-7355 FAX：048-290-7356

E-mail：artcenter@kobo-syu.com

<https://artcenter-syu.com/>



ART(s) さいほく



まちこうば GROOVIN' でのアトリエ活動



「アートセッションズ in さいほく」



作家が想いを語るアーティストトーク

Photo: 武藤奈緒美

アトリエの経験をいかして 作家や地域をつなぐ

2019年に特色型支援センターとして埼玉県東松山市に立ち上がったART(s)さいほく。基幹型のアートセンター集 (p. 6) と連携しながら、自然豊かな県北部を中心に活動を広げています。事務局を担う社会福祉法人^{すばる}昇は1990年以來、医療と福祉の両面から障害のある人の暮らしを支えてきました。特にアトリエ兼ギャラリーの「まちこうば GROOVIN'」は創作活動と発表の場、また地域交流の場として活動しています。

この経験を生かし、ART(s)さいほくは「埼玉県障害者アート企画展」に初期段階から関わり「埼玉県障害者アートネットワークTAMAP±〇」の中心的な役割を担っています。さらに、県北西部の市町村の障害福祉課を訪れて情報提供や連携を行い、作品発表の場を企画したり自治体と共催で運営したりするなど、新たな表現の発掘に努めています。

作家との関係性をていねいにつくる

「アートセッションズinさいほく」と題した公募展を近隣の障害者支援施設や自治体と協力しながら毎年企画。初めて作品を発表する人も多いため、学校や相談支援事業所からの情報や協力を得ながら作家や家族に会って話を聞き、出展のサポートを行うことも。図書館や観光案内施設など普段から地域の人が訪れる場所で開催しています。



展覧会の経験を生かし自治体をサポート

比企郡嵐山町、入間郡越生町といった自治体による障害のある人の作品展で協働しています。センターの役割として展覧会運営のアドバイスや展示レイアウトの提案、什器の貸し出し、SNSによる広報に取り組み、設営作業は一緒に行います。新たな団体や作家と出会い「アートセッションズinさいほく」への出展につながることも。



支援者と相談しながら制作することも



自治体職員や地域の方との展示作業



Q. 支援センターを通じて、 どのような地域の未来を想像しますか？

一人ひとりの表現や生き方を大切にしたい地域になるよう願っています。そのために、微力ですが私たちは面白いモノやコトを持ち寄り、持ち帰ったりできる場になればと思っています。(石平裕一)

STAFF'S
COMMENTS



Ishidaira Yuichi

INFORMATION

ART(s) さいほく
社会福祉法人 昇
〒355-0077 埼玉県東松山市上唐子 1532-5
まちこうば GROOVIN' 内
TEL / FAX : 0493-81-4597
E-mail : arts_saihoku@subaru-swc.com
<https://subaru-swc.com/~groovin/>



うみのもり



ワークショップ「えのぐと布を使ったドロ잉」

子どもから大人まで
多くの人が集う場

九十九里浜にほど近いJR上総一ノ宮駅から徒歩3分。住宅街にある千葉県障害者芸術文化活動支援センター うみのもり（以下、うみのもり）は造形教室「たまあーと創作工房」（株式会社いろだま）が運営しています。「うみのもり」には「多種多様な生き物を養い、海そのものの水質をも浄化する、海中の藻場のようにありたい」という想いを込め、子どもや大人、障害のある人も通う造形教室のノウハウを活かして表現を楽しむ場づくりに力を入れています。

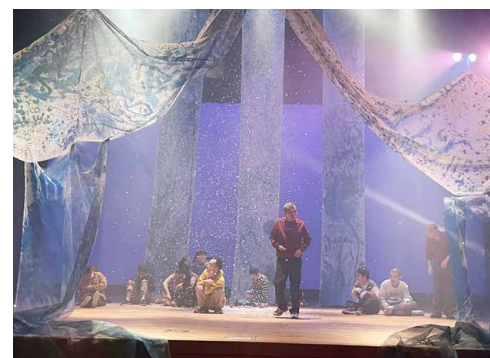
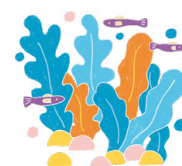
2020年の開設以降、毎年行っている座学の講座や体験型のワークショップではさまざまなジャンルに触れることができます。またセンター設立当初から公募展「うみのもりの玉手箱」を開催。2024年からは、千葉県立美術館を会場に規模を拡大して実施しています。



ワークショップでの創作風景



展示会では絵画、立体、詩、大漁旗などを紹介
Photo: 竹村浩輝



身体表現分野のワークショップ



展示会の設営も学びの場に

多様なジャンルのワークショップ

公開講座として誰でも参加できるワークショップを不定期に開催。絵画や音楽、身体表現、詩など多様な専門家をゲストに参加者それぞれの表現を引き出します。幅10mほどの布に絵を描いたり、歌や音をつくって即興で音楽を奏でたり。そこで生まれた作品は動画としてまとめ、例年開催する公募展「うみのもりの玉手箱」で発表しています。



表現の場をつくる人たちの育成

表現の場を支える人たちの育成に力を入れています。講座や展示会には、植草学園大学の特別支援教育を学ぶ学生が運営に参加。また城西国際大学が主催した、千葉県内の5つの福祉施設に通う人々による展示会では、うみのもりのスタッフが学生たちに企画や展示方法の助言や指導を行い、共催として参加しました。



Q. どんな存在をめざしていますか？

「大漁旗（たいりょうばた）をみなさんと一緒にふる人たち」になればと思っています。「大漁旗」はよろこびを分かち合うときに海原から青空に舞わせます。「表現することは生きること」と大きな旗に記し、みなさんと進んでいける場をめざしています。（こまちだたまお）

STAFF'S
COMMENTS

Komachida Tamao

INFORMATION

千葉県障害者芸術文化活動支援センター
うみのもり

株式会社いろだま

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 2553-8

TEL/ FAX : 0475-36-7411

E-mail : info@uminomori.net

<https://uminomori.net/>



東京アートサポートセンター Rights (ライツ)



ティアラ表現ワークショップ「のはらフル」 Photo: たかはしじゅんいち

身体を通した非言語のコミュニケーション

舞台芸術分野にも注力しています。2023年にはNPO法人や江東区の文化施設と連携し、障害の有無に関わらず多様な人が参加する身体表現の連続ワークショップを開催。互いの動きを重ね合わせることで、新たな表現や言葉に頼らないコミュニケーションが生まれる楽しさを体験する場となりました。同時にインクルーシブな空間づくりに必要となるファシリテーターの育成研修も実施しました。



身体による自由な表現と交流を楽しむ様子
Photo: たかはしじゅんいち

自分のことを、自由に話せる場づくり

2023年から障害のある人の芸術活動について自由に交流できる場、コミュニティスペース「わあとなじかん with ライツ」を開催。これまで障害のある当事者のほか、福祉、アート、行政関係者などの分野から参加がありました。「アート」を軸に安心して自身のことを話せる場、そしてネットワークづくりにつながる場として企画しています。



「わあとなじかん with ライツ」

作品の権利保護や情報発信にも力を入れた取り組み

2014年に開設された東京アートサポートセンター Rights (ライツ)。中野区を拠点とする社会福祉法人愛成会の企画事業部内に設置され、「相談支援」「人材育成」「ネットワークづくり」「発表の機会の確保」「情報収集と発信」の5つを中心に取り組んでいます。特に「障害のある人と地域の人が出会い、つながる」ことを重視し、都内の自治体や文化施設、商店街、福祉施設などと連携しながら、研修、ワークショップ、イベントなどの事業を展開しています。

また、開設当初から障害のある人の作品における権利保護に力を入れ、弁護士による無料相談を定期的に開催。都内各地で行われている障害のある人の芸術活動や鑑賞サポートの訪問調査・発信を積極的に行うほか、活動の場や公募展などの情報はウェブサイトやSNSで随時発信しています。



権利保護に関する研修



展示・企画サポートを行った「スーパーポジティブ展」



Q. どんな存在をめざしていますか？

地域の「ハブ」となる存在。支援センターが情報提供をしたり関係者同士をつないだりすることで、より豊かな活動の手助けになればと考えています。発表の機会や人材育成などの事業を通してネットワークの目を広げていきたいです。(村上あすか)

STAFF'S
COMMENTS



Murakami Asuka

INFORMATION

東京アートサポートセンター Rights (ライツ)

社会福祉法人愛成会

〒164-0001 東京都中野区中野 5-26-18

TEL : 03-5942-7251 FAX : 03-5942-7252

E-mail : rights@aisei.or.jp

<https://rights-tokyo.com/>



神奈川県障害者芸術 文化活動支援センター



重度重複障害のある人との音楽の取り組み Photo: 金子愛帆

地域とアートをつなげる 中間支援組織として

神奈川県障害者芸術文化活動支援センターは2020年に開設し、「つなぐ」「つくる」「支える」の3つの柱で活動しています。「つなぐ」は障害のある人の芸術文化活動に関する相談対応や活動を支えるネットワークを構築すること、「つくる」はアーティストによるワークショップなどを通して体験や発表の機会を創出すること、「支える」は障害のある人の芸術文化活動を支援するコーディネーターを育成することです。

実施団体のNPOは「アートの持つ力を現代社会に活かすこと」をミッションに、横浜を拠点に30年以上前から小劇場「STスポット」の運営、学校や福祉施設へのアーティスト派遣、地域のアートプロジェクト支援などを行っています。2015年より文化庁委託事業や神奈川県との協働を通し、福祉と芸術文化をつなぐ活動を続けています。



知的障害のある人とのダンスの取り組み Photo: 金子愛帆



「障がい福祉と芸術文化の関わりを考える勉強会」



『いっしょにたのしみおさんぽマップ』

アートと福祉に出会える「おさんぽマップ」

「活動場所がわからない」といった相談が多く寄せられることから県内のアートに取り組む福祉施設と文化施設を掲載した『いっしょにたのしみおさんぽマップ』（2023年）を発行しオンラインでも公開しています。施設職員のインタビューが掲載され、福祉の仕事に携わる人が地域の活動を知ることでネットワークの構築にもつながっています。



福祉施設へアーティストが出かける

福祉施設にアーティストが出かけるワークショップ。センター開設以来のべ23施設で実施しました。希望する施設を公募で募集し、身体表現や音楽、造形などさまざまなワークショップを実施してきました。参加者一人ひとりの表現に目を向け、みんなで共有する場を通して、お互いを認め合う豊かな時間が生まれています。



知的障害のある人とのダンスの取り組み Photo: 金子愛帆



Q. 支援センターを通じて、 どのような地域の未来を想像しますか？

神奈川県には福祉施設や文化施設、コミュニティセンターなど芸術文化に出会える場がたくさんあります。そうした場所をだれもが活用できるように支援センターが情報をつなぎ、支えになりたいと思っています。（川村美紗）

STAFF'S
COMMENTS



Kawamura Misa

INFORMATION

神奈川県障害者芸術文化活動
支援センター

認定 NPO 法人 ST スポット横浜
〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15
横浜 ST ビル地下 1 階
TEL : 045-325-0410 FAX : 045-325-0414
E-mail : info@k-welfare.org
<https://k-welfare.org/>



YAN 山梨アール・ブリュット ネットワークセンター



相談支援では一人ひとりの想いに寄り添う

作家本人やその家族から多く寄せられる相談は発表の場に関することです。また企業や病院などから作品の二次利用や展示方法についての問い合わせも。必要に応じて自宅や施設に行き、困りごとを聞きながら解決策を提案しています。美術を学んだスタッフの専門知識も活かし丁寧にサポートすることで信頼関係を築いています。



地域やジャンルを超えた関係づくり

地域の支援体制を広げるため、開設当初より福祉関係者や美術家、デザイナー、教員のほか希望する参加者と「アートカフェミーティング」を定期的に開催。コロナ禍では研修の一環として活用し、現在は各事業所へのアウトリーチにも。これまであまり関わりのなかった福祉事業所の課題を開き、ワークショップを実施しています。



作家の自宅を訪問して相談にのることも



鬼のお面制作ワークショップ



「音と遊ぼう」ワークショップ Photo: 本杉郁雲



染め物のワークショップ

自然豊かな山あいのまちで ネットワークを育む

2016年に設立されたYAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター（通称、YAN）。自然豊かな県北部の山あいのまちに拠点を置き、入所・通所施設やグループホームを運営する社会福祉法人が担います。活動はおもに「支援コーディネーターの設置と相談支援、人材育成」「企画展の開催」「ネットワーク体制の構築」の3つ。山梨県では福祉施設ではなく自宅で作品制作に取り組む作家も多く、一人ひとりの相談に丁寧に対応しています。さらに開設当初より行うアートカフェミーティングでは、形を変えつつもジャンルや地域を超えてネットワークを育んでいます。

また「楽しむ」「支える」「深める」というキーワードで障害のある人の芸術文化活動に取り組む県の事業に協力し、舞台公演の鑑賞や展覧会の実施などを通し、障害のある人が芸術文化に親しむ機会を設けています。



第3回山梨合同企画展「呼吸をするように生まれたものたち PART2」 Photo: 本杉郁雲



INFORMATION

YAN 山梨アール・ブリュット
ネットワークセンター
社会福祉法人ハケ長名水会
〒408-0025 山梨県北杜市長坂町長坂下条 1237-3
TEL : 0551-45-7027 FAX : 0551-45-8221
E-mail : yan@y-meisui.or.jp
<http://y-meisui.or.jp/yan/>



Q. 支援センターを何かに例えるなら？

伴走者です。相談者とともに解決の糸口を探り、問題に直面している当事者自らが主体的に解決策を見出せるようにしています。「代走」するのではなく、当事者の視点に立ち「伴走」することを心掛け、支援しています。（瀧澤 聡）

STAFF'S
COMMENTS



Takizawa Satoru

ザワメキサポートセンター

(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)



展覧会に向けて、ていねいな取材を重ねる

ザワザワするアートを 共有する場に

2022年にスタートしたザワメキサポートセンター。この名称は2016年から開催されている作品展「ザワメキアート展」に由来しますが、これは作品展の実行委員会で「障害のある人の作品をみるとザワザワする」という発言から生まれた言葉です。本センターは「ザワメキアート展」の実行委員会事務局が機能を拡張したかたちで運営しています。

運営する社会福祉法人は、県内20事業所で障害福祉サービス事業、介護保険事業のほか、児童福祉施設、障害者スポーツセンターなどを運営。本センターも、障害のある人だけでなく、生きづらさを抱えた人たちにも焦点をあてて活動を広げています。また県内全域に活動を広げるため「ザワメキアート展」の開催を軸に、学校や商業施設での出張展示「ザワメキ・キャラバン」などさまざまな手法で作品を紹介しています。



「ザワメキアート展 2021」



学校での出張展示「ザワメキ school キャラバン」



作品の紹介文には支援者や家族のコメントも

作品の背景にある「モノガタリ」を伝える

「ザワメキアート展」では自宅や施設を取材し、制作の背景や想い、家族や支援者との関わりなどを含めた「モノガタリ」を作品展で紹介。鑑賞者に作品の魅力だけでなく福祉への理解や興味を持ってもらう機会を提供しています。取材と発表を通じて作家自身の自己肯定感の向上や支援者の「マナザシ」の変化も生まれています。



展覧会に向けた打ち合わせ

多様な専門家とのネットワーク

ザワメキサポートセンターには、福祉関係者だけでなく学芸員、ギャラリストなどの美術関係者、公募を通じた教育関係者など多分野の専門家がアドバイザーとして参画しています。信州アーツカウンシルとも連携しながら事業を推進。作品展示や各種相談の対応、研修の企画立案などの際、各専門家の協力を得ています。



Q. 支援センターを通じて、 どのような地域の未来を想像しますか？

長野県は障害のある人の芸術文化活動に力を注ぐ人や施設、団体が多く存在します。支援センターはその「点」で存在する力をつなぎ、網目のような大きな力となりネットワークが広がる未来を期待しています。(持田めぐみ)

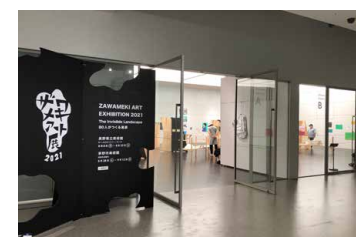
STAFF'S
COMMENTS



Mochida Megumi

INFORMATION

ザワメキサポートセンター
(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)
社会福祉法人長野県社会福祉事業団
〒381-0034 長野県長野市大字高田 364-1
(長野県社会福祉事業団 本部事務局内)
TEL : 026-217-0022 FAX : 026-228-0310
E-mail : art@nagano-swc.com
<https://nagano-swc.com/art/>





Archive

南関東・甲信 ブロックの協働 2021-2024

南関東・甲信ブロック内の支援センターが協働した活動の一部を紹介します。2021～2024年度に広域センターが実施してきたおもな研修会や、ブロック内の支援センターと協働した合同企画展です。そのほか定期的に意見交換会も行っています。

2021年度

〔研修会〕

福祉分野における相談事業とは何か

2021年10月12日(火)、オンライン

講師: 梅田耕(社会福祉法人みぬま福祉会)

鑑賞支援を考えるワールド・カフェ①

2021年11月15日(月)、オンライン

講師: 藤原顕太(一般社団法人ベンチ)

SDGs でつながる地域・企業との協働

2021年12月14日(火)、オンライン

講師: 中尾文香(NPO 法人ディーセントワーク・ラボ)

地域、行政との連携や広報強化を学ぶ

2022年2月16日(水)、オンライン

講師: 野際里枝(N-style)

〔合同企画展〕

南関東・甲信ブロック合同企画展

ドキュメントとしての表現

2022年1月12日(水)～1月16日(日)、

埼玉会館第2展示室

【関連イベント】

アーティストトーク／クロストーク: 2022年1月15日(土)、埼玉会館第2展示室、登壇者: 出展作家、中津川浩章(本展キュレーター)、都築響一(編集者)

2022年度

〔研修会〕

支援センターによる中間支援の取り組みを学ぶ

2022年9月6日(火)、オンライン

講師: 柴崎由美子(障害者芸術活動支援センター@宮城(SOUP))、樋口龍二(FACT 福岡県障がい者文化芸術活動支援センター)

ソーシャルデザインによる支援の仕組みづくりを学ぶ

2022年10月5日(水)、オンライン

講師: 福島治(グラフィックデザイナー／東京工芸大学デザイン学科教授)

舞台芸術や文化施設の鑑賞支援を学ぶ

2022年11月9日(水)、オンライン

講師: 藤原顕太(一般社団法人ベンチ)

〔合同企画展〕

南関東・甲信ブロック合同企画展

「カウンターポイント—それぞれの寄り添うかたち—」②③

2023年1月17日(火)～22日(日)、東京芸術劇場アトリエーイースト・アトリエウエスト

2023年度

〔研修会〕

アートを仕事にする福祉現場のアトリエ見学ツアー④

2023年6月6日(火)、みぬま福祉会(埼玉)

サポートブックを起点に支援センターの

目的や運営を考える

2023年7月5日(水)、オンラインにて

講師: 長津結一郎(九州大学大学院芸術工学研究院准教授)、宮田智史・櫻井香那(NPO 法人ドネルモ)

教育機関との連携と

多様なアートの学びについて考える

2023年8月9日(水)、オンラインにて

講師: こまちだたまお(株式会社いろだま)、田中真実(認定NPO 法人 S T スポット横浜)

〔合同企画展〕

南関東・甲信ブロック合同企画展2023

「カウンターポイント—それぞれの寄り添うかたち—」⑤

2023年11月29日(水)～12月3日(日)、埼玉県立近代美術館一般展示室4

【関連イベント】

演劇や人形劇のパフォーマンス実演、
2023年12月3日(日)

2024年度

〔研修会〕

支援センターの活動事例から鑑賞支援について考える

2024年7月8日(月)、オンライン

講師: ザワメキサポートセンター(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)、YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

広報物のアクセシビリティについて考える

2024年9月11日(水)、オンライン

講師: 兵藤菜衣・篠田 菜(株式会社 precog)、畠山邦男(認定NPO 法人みのり 領家グリーンゲイブルズ)

支援センターが企画する公募展を見学する

2025年1月21日(火)、千葉県立美術館

〔トークイベント〕

「つくる・つたえる・つながるサミット」

～千葉県の障害のある人の表現活動と南関東・甲信エリアの障害者芸術文化活動支援センターの事例について考える～

(うみのもりの玉手箱4 関連トークイベント)⑥

2025年1月21日(火)、千葉県立美術館 講堂

〔パンフレット作成・配付〕

『南関東・甲信ブロック障害者芸術文化活動支援センター』パンフレット

2024年11月25日発行

Interview

支援センターとその役割

長津結一郎〔九州大学大学院准教授〕

障害者芸術文化活動支援センター（以下、支援センター）ではどんなことが行われ、何が目指されているのでしょうか。南関東・甲信ブロックで2021年から事業評価策定アドバイザーを務め、多様な背景のある人の表現活動に着目した研究を行う長津結一郎さんに質問しました。支援センターの役割や設立の背景について解説し、これまでの南関東・甲信ブロックの活動や特徴も紹介します。

支援センターとは何か？

——厚生労働省の事業として始まった「支援センター」とは、どんな役割を担っているのでしょうか。

障害のある人が表現活動に接する環境がこの10年くらいで急速に広まりました。その下支えとして、さまざまな政策や制度も整ってきています。その一つに支援センター、正式名称だと障害者芸術文化活動支援センターがあります。活動したい人に向けた支援だけでなく、自治体や企業、団体のあいだに立って支援を行う「中間支援」の役割も担っているようです。支援センターは2017年に始まった厚生労働省による「障害者芸術文化活動普及支援事業」によって設置されています。

——具体的にはどのようなことをしているのでしょうか？

おおむね5つあります（p.4 参照）。1つは相談支援です。相談内容は幅広く、たとえば作品をつくっているけれど「制作方法がわからない」「制作環境や発表の機会を探している」といったものから、企業や自治体の「こんな作家を探している」「展覧会を開催したいけれどもどうすればいいだろう」といった内容まであるようです。

2つ目に機会の創出があります。障害の有無にかかわらず芸術文化活動に参加できる機会を生み出すため、展覧会や舞台公演を開催したり支援したり。南関東・甲信ブロックでも各支援センターが展覧会やワークショップなどを行っています。

3つ目にネットワークの構築です。専門や分野を超えて関係性を築いており、対面やオンラインといったさまざまな方法で相談や情報交換、会議などを行っているようです。

4つ目に人材育成。こうした活動を支援し推進する人を育てるため研修や講座などを行っています。当ブロックでも千葉県障害者芸術文



ながつ・ゆういちろう
九州大学大学院芸術工学研究院准教授。専門はアーツ・マネジメント、文化政策学。多様な背景を持つ人の表現活動に着目した研究を行っている。近年はおもに舞台芸術分野のワークショップや作品創作プロセスに着目したフィールドワークと分析を軸に、現場からの視点をもとにした理論構築や社会実装を試みる。2013年東京藝術大学大学院博士後期課程修了。著書に『舞台の上の障害者——境界から生まれる表現』（九州大学出版会、2018年）など。

支援センターは、「中間支援」の役割も担っています。



Nagatsu Voice

化活動支援センター うみのもりの大学との連携事業(p.11) や東京アートサポートセンター Rights (ライツ) が研修会 (p.12) などを開催しています。

そして5つ目が情報発信。支援センターの多くがウェブサイトをつくっていますが、ウェブや印刷物も含めて、障害のある人の芸術文化活動に関する情報を集めて発信しています。

——支援センターによってどのような未来をめざしていると思いますか？

厚労省の者ではないので個人としての一意見ですが、大きくは、その地域で障害のある人が芸術文化活動を通して社会参加した状態で生活を送ることがめざされていると感じます。自身の表現機会が広がり、余暇が充実したりするだけではなく、障害のある人と社会の接点になっていく。その取り組みが、たとえば都心や一地方に限らずに全国津々浦々に広がっていく。それによってもっと広い意味での支援が行われていく。支援センターはその入り口を増やすためのものなのかなと思っています。

障害者芸術文化活動普及支援事業の背景

——2017年から始まった「障害者芸術文化活動普及支援事業」はどのような経緯でスタートしたのでしょうか。

その10年前に2007年から行われた「障害者アート推進のための懇談会」にさかのぼると思います。厚生労働省と文部科学省が共同で障害者アートを推進するために、さまざまな専門家とともに議論や意見交換を行っていました。その後、障害者芸術文化活動普及支援事業に直接的に関わる議論として「障害者の芸術活動への支援を推進するための懇談会」が2013年に開かれています。

それまでも各地では、民間ベースで障害のある人の表現活動を支える動きがありました。それを国として把握しながら、全国規模で活動を広げ、支援する枠組みとして生まれたのが「障害者芸術文化活動普及支援事業」です。前身となる「障害者の芸術活動支援モデル事業」は2014年から3年間行われています。

その後、2018年には「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（障害者文化芸術活動推進法）」が公布・施行されました。同年には有識者会議が開かれ、この法律のなかでどのように基本的な計画を立てるかが議論されています。有識者会議の意見をまとめるワーキンググループに私も参加しましたが、この有識者会議ではすでに実施していた障害者芸術文化活動普及支援事業などの経験ももとにして、ど

障害のある人が芸術文化活動を通して社会参加した状態で生活を送る未来をめざしているのではないのでしょうか。



Nagatsu Voice

のような計画を策定すると良いかという議論がありました。

南関東・甲信ブロックの取り組み

——南関東・甲信ブロックの印象を教えてください。

南関東・甲信ブロックでは、年度ごとに「ロジックモデル」という方法を使って事業の評価を行っています。私は2021年からその評価チームとして関わっていて、年度始めに目標を立てるところから伴走しています。年度末になるとみなさんとミーティングしながら「今年はどうでしたか」とヒアリングしたり、アンケートの集計から目標達成度をまとめたりしているなかで、風通しのよいブロックだなというのが率直な感想です。

——これまでの活動には、どのような特徴がありますか。

私に関わりはじめてからのこととお話ししますと、2021年から3年間は毎年、合同企画展を行ってきました。テーマや作品選定の話し合いを7つの支援センターが密に対話を重ねながら一つの展覧会をつくり上げています。キュレーションや展覧会運営といったノウハウの交換はもちろんですが、一つの目標に向かって連携を重ねることで、各支援センター同士の関係性が密になった印象があります。

ロジックモデルで立てている目標も、毎年「各支援センターが協働し、相互フォローしながら、『みんなで考える』体制づくりを目指す」としていました。その目標のとおり、まさに誰かが旗振りをするのではなく、各自が主体的に考える体制づくりを実現できていると思います。

——南関東・甲信ブロックに期待することはありますか。

7つの支援センターは、それぞれ地域も特徴もまったく違うように感じます。母体となる団体も、障害福祉から高齢者福祉まで幅広い事業を行う社会福祉法人、障害とアートに特化した社会福祉法人、美術教室からスタートした工房、劇場を持つNPO法人など、そのジャンルも規模もさまざまです。特性が違うからこそ、ブロック内で定期的に行う研修会や会議を通して、丁寧に情報交換したり、相談したりしています。その結果としてネットワークをつくることの効果、みんなで考える体制づくりが実現されている。コロナ禍で困難なことも多かったと思いますが、誰かが悩んだときに、相談できる関係ができつつあるようです。異なる背景を持つ支援センターが集結したブロックならではの大きな強みになっているので、これからも地域の核として活動を続けていきたいです。

特性が違うからこそ、誰かが悩んだときにお互いに相談できる関係性を築きつつあります。



南関東・甲信ブロック 支援センター



埼玉県・基幹型

埼玉県障害者芸術文化活動支援センター
アートセンター集



埼玉県・特色型

ART(s)さいほく



千葉県

千葉県障害者芸術文化活動支援センター
うみのもり



東京都

東京アートサポートセンター
Rights (ライツ)



神奈川県

神奈川県障害者芸術
文化活動支援センター



山梨県

YAN 山梨アール・ブリュット
ネットワークセンター



長野県

ザワメキサポートセンター
(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)

2025年6月1日発行

発行／制作： 社会福祉法人みぬま福祉会／南関東・甲信障害者アートサポートセンター

デザイン： 宮外麻周 (m-nina)

表紙絵／扉絵： 西田真緒 (工房集)

イラスト： 山里美紀子

似顔絵： 関翔平 (工房集)

編集： 佐藤恵美

助成： 令和7年度障害者芸術文化活動普及支援事業 (厚生労働省)

※掲載情報はすべて2025年度時点のものです。

